

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	Plus+days仙台富沢校
○保護者評価実施期間	2025年2月4日～2025年3月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)12(回答者数)9
○従業者評価実施期間	2025年2月4日～2025年3月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)19(回答者数)5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月15日

○ 分析結果

事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている 取組等	さらに充実を図るための取組等
隣接している保育園と連携を図り、保育所等訪問支援を行いながら園での課題を校舎の活動にも取り入れていること。	園の先生との情報共有や、保育所等訪問支援担当のスタッフに訪問時の様子を聞き、支援計画や活動内容に反映させている。	訪問支援担当スタッフのみならず、複数のスタッフで見学をすることで様々な視点からアセスメントし、日々の学習や関わりに反映させていく。
心理担当職員や言語聴覚士等、様々な職種のスタッフが在籍していること。	感情が昂った際や気持ちが落ち込んだ時に、様々なスタッフの視点から聞き取り等を行っている。発音や運動面に課題のあるお子様に対して、言語聴覚士が定期的に個別や小集団で支援を行う時間を設けている。	言語聴覚士が持つ視点を徐々に他のスタッフにも伝えて各自がができる支援を行えるよう、研修の機会等を設けていきたい。
事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
地域交流の機会が少ないこと。	事業所主催の行事等はなく、交流の機会が限られている。地域交流の視点を持ったプログラムを組むことができていない。	事業所主催の行事等を検討する。地域交流の視点を持ち、地域で開催されるイベント等の情報収集を行い、積極的に参加する。
児童発達支援センター等との連携の機会が限られていること。	近隣の児童発達支援センターの取り組みやイベント等を把握できていない。	近隣の児童発達支援センターの情報収集を行う。無理なく取り組みそうな部分から、連携の方法について検討する。